

会 議 録

会議録	令和3年度 第1回 豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 豊田市公共交通会議について</p> <p>4 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) 豊田市公共交通会議の規約改正について</p> <p>(2) (仮称)「豊田市地域公共交通計画」の策定について</p> <p>【報告案件】</p> <p>(1) バス停留所の安全確保対策について</p> <p>(2) コミュニケーション研修の動画作成について</p> <p>5 連絡事項</p> <p>・次回会議の開催予定について</p> <p>6 閉会</p>
日 時	令和3年4月23日(金) 午後2時00分～午後3時45分
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室(オンライン会議)

出席者 (敬称略)	<p>【委員】 松本 幸正 (名城大学) 山岡 俊一 (豊田工業高等専門学校) 梶原 正晃 (国土交通省中部地方整備局) (代理 白川) 山内 三奈 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局) (代理 鈴木) 澤木 徹 (愛知県都市・交通局交通対策課) (代理 石川) 伊與田正康 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課) 林 孝臣 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課) 小久保 浩 (愛知県警察豊田警察署) (代理 中根) 高井 嘉親 (豊田市 副市長) 阿久津正典 (豊田市都市整備部) 釘宮 順子 (豊田市ボランティア連絡協議会) 國枝 和行 (豊田市 PTA 連絡協議会) 吉村 一孝 (豊田商工会議所) 大竹 宏 (愛知県タクシー協会) (代理 加藤) 小林 裕之 (愛知県バス協会) 毛利 康浩 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会) 田下 貴幸 (名古屋鉄道株式会社) 吉岡 実 (名鉄バス株式会社) 境 政義 (豊栄交通株式会社) 寺澤 秀樹 (愛知環状鉄道株式会社) (代理 小川)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	<p>1. 次第 2. 令和3年度 第1回 豊田市公共交通会議 会議資料</p>

【協議案件】

(1) 豊田市公共交通会議の規約改正について

○事務局 【協議1】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員承認>

(2) (仮称)「豊田市地域公共交通計画」の策定について

○事務局 【協議2】に基づき説明。

○委員 新計画の検討内容について、第一次計画では利用促進がキーワードであったが、今回の計画の検討内容でも利用促進について今後具体的に議論していけたらと思う。また、新型コロナウイルス対応の中で大規模なアンケート調査を行ったと説明にあったが、公共交通の利用が減っているという結果についてもう少し具体的に聞きたい。公共交通の利用が減ることによって生活や移動が困難になったという実態は見てきたのか。

○事務局 新計画の具体的な内容については、今後協議させていただきたい。新型コロナウイルスの影響について、外出の機会自体が減っていることは確認できたが、公共交通利用の減少が外出の機会減少に直結しているかどうかまでは把握できていない。しかし全体的なデータの傾向からすると繋がりがあのではないかと考えている。

- 委員 承知した。コロナ禍が今後も長く続いていくことが考えられるため、必要に応じてまた実態把握の調査等を協力しながらやっていきたい。
- 座長 公共交通から自動車あるいは徒歩、自転車への転換や、外出自体を控えていることが多々あると聞いている。特に高齢者の体の健康、心の健康への影響が心配される。事務局としてそのような悪影響が出ている話を把握していることはあるか。
- 事務局 福祉部と話をする中で、高齢者の外出率が下がったことによって良くない影響が出ていると聞いている。高齢者クラブ等にヒアリングをしながら、新型コロナウイルスの影響や健康への影響をどのように計画に盛り込んでいけるか検討を進めていきたい。
- 座長 承知した。地域に公共交通を提供し、気軽に歩ける環境が必要。
- 委員 バスについて、度重なる新型コロナウイルスの影響により、夜の時間帯やこれまで高齢者が主に利用していた日中の時間帯の利用が減少している。高齢者向けの利用促進商品の紹介やダイヤ改正等を行い、高齢者の移動の利便性を高められる基盤づくりを積極的に進めている。

<協議結果：全員承認>

【報告案件】

(1) バス停留所の安全確保対策について

- 事務局 【報告1】に基づき説明。
- 委員 対策が完了していないバス停の中で、移設がどうしても困難なバス停は存在するのか。また、移設が難しい場合は移設以外の対応も可能なのか。
- 事務局 対策が未完了のバス停はほとんどが幹線道路沿いであり、安全上移設先が見つからない課題がある。現状そのようなバス停には、注意喚起の張り紙等で対応している。
- 委員 実際にバス車両が停まる位置と横断歩道や交差点等との位置関係を個別に調べた上で対策を考える必要がある。必ずしも移設ではなく、それぞれのバス停にあった対策を実施していくと良い。
- 座長 目的は移設ではなく安全の確保であるため、早急に安全確保が必要な場所については移設以外の安全対策を実施して欲しい。移設済みのバス停について、実際に安全が確保されたかの確認はどのように行っているのか。
- 事務局 移設後、運行事業者に意見を聞き確認しているが、今のところ危険である報告は受けていない。また、職員でもバス停の点検・確認を行っていく。
- 委員 国としてはある程度優先順位をつけて危険なバス停のリストアップを進めてきたが、基準に関わらず交通事故の危険性はどこでもあるため、リストにない部分についても安全確保については留意していきたい。
- 座長 事故の実績がある所は当然のことだが、利用者から危ないバス停を報告してもらう仕組みがあると良い。運行事業者からも危険だと思う箇所があればまた報告いただきたい。

(2) コミュニケーション研修の動画作成について

- 事務局 【報告2】に基づき説明。
- 委員 車椅子でバスに乗る際、以前は予約が必要なこともあった。今後も、誰もが快適に移動できる仕組みづくりをしていって欲しい。
- 座長 特に名古屋市内では鉄道での車椅子利用をよく見るが、豊田市としては鉄道関係での車椅子利用について考えていることはあるか。

- 事務局 駅のバリアフリー等のハード面については進んできているが、ソフト面では現状あまり連携できていないため、今後鉄道事業者と協議を進めて連携していきたい。
- 委員 車椅子、白杖使用の利用者に対し、無人駅についても可能な限り乗車から降車まで係員が付き添うようにしている。また、数年にわたり電車とプラットホームの段差を無くすよう嵩上げしており、主要な駅については概ね完了している。
- 委員 昨年度は北岡崎駅にエレベータを設置する等ハードの面で対策を進めてきた。ソフトの面では、係員側からだけでなく利用者側からも積極的に声掛けできるよう啓発している。利用者の最寄り駅がエレベータ未設置の場合や、おいでんバスの乗り入れができない駅の場合など、利用者からの要望と現状がまだ乖離している部分もあるため、今後も市と連携して改善していきたい。
- 座長 今後、地域公共交通計画では超高齢社会への対応ということでデマンドやタクシー利用促進に加えて、全駅のバリアフリー化について明記していくことの重要性を改めて感じた。
- 事務局 バスと鉄道共に利用できるネットワークづくりについて新計画に盛り込んでいきたい。
- 委員 豊田市駅西口にスロープを出す際に狭くて乗務員が苦勞している。駅西口のバリアフリーについても対策を進めてもらいたい。
- 事務局 現地を確認し、まずは現状を把握した上で今後対策していきたい。

以上